武見記念賞講演要旨
2018年12月21日（金）、於国際文化会館
「豊かな長寿社会を将来世代に伝える」
清家篤（日本私立学校振興・共済事業団理事長/慶應義塾学事顧問）

〔Ⅰ〕社会保障制度改革の視点
（１）高齢化の水準の高さ、速度の速さ、奥行きの深さ
（２）成功の結果である豊かな長寿社会
（３）福澤先生の「奴雁」・「公智」・「実学」と武見先生の「医心伝心」

〔Ⅱ〕「奴雁」の視点で
（１）「奴雁」（福澤先生）、「未来への考慮」（武見先生）
（２）明らかな将来予測と対応策

〔Ⅲ〕「公智」を働かせる
（１）「公智」（福澤先生）、「ウェルバランスド・アイデアリスト」（武見先生）
（２）有限な資源の最適配分（社会保障制度改革を例に）
（３）全世代型社会保障、地域包括ケア、就労促進、後世代負担軽減

〔Ⅳ〕「実学」に基づいて
（１）「実学」（福澤先生）、「学問と社会」（武見先生）
（２）実証分析に基づく政策形成（高齢者の就労促進を例に）

〔Ⅴ〕２０２５年から２０４０年へ
（１）社会保障と税の一体改革で２０２５年問題を乗り切る
（２）今から必要な２０４０年問題への対応

〔Ⅵ〕独立の大切さ
（１）経済的・社会的・政治的自立のための健康寿命
（２）自助を支える共助・公助・互助
（３）豊かな長寿社会を将来世代に伝え世界のモデルにする

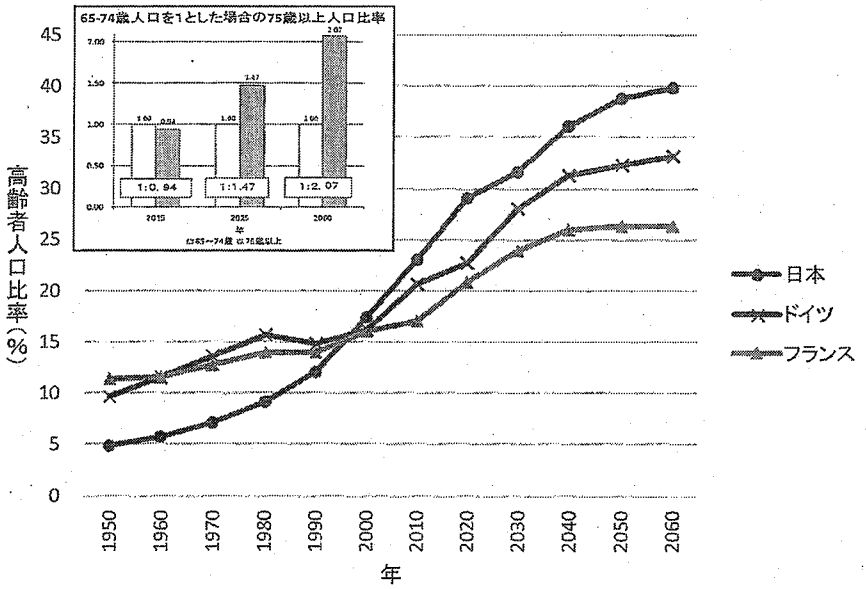
「奴雁」（福澤先生）、「未来への考慮」（武見先生）
○福澤先生：「群雁野に在て餌を啄むとき、其内に必ず一羽は首を揚げて四方の様子を窺ひ、不意の難に番をする者あり、之を奴雁と云ふ。学者も亦斯の如し。天下の人、夢中になりて、時勢と共に変遷する其中に、独り前後を顧み、今世の有様に注意して、以て後日の得失を論ずるものなり。」（福澤諭吉『民間雑誌』明治7年）
○武見先生「外界に適応する生物は、単に適応するだけでなく、それが未来に生きるために、その影響が遺伝子にまでプリントされていることを知っている人は、案外少ない。」「経済の成長期においてこそ、未来に向かっての基礎づくりをしなければならないはずなのに、その成長に酔いしれてばかりいて、過去の延長線上の不合理を少しも是正しようとしなかった日本は、さきごろの石油ショックを契機に、大きな打撃をこうむることになった。」（武見太郎『医心伝真』昭和51年）

「公智」（福澤先生）、「ウェルバランスド・アイデアリスト」（武見先生）
○福澤先生：「人事の軽重大小を分別し軽小を後にして重大を先にしその時節と場所とを察するの働を公智と云う。」（福澤諭吉『文明論之概略』明治8年）
○武見先生：「究極的に『福澤諭吉全集』において、体系的に彼をとらえてみれば、彼こそまさにウェルバランスド・アイデアリストであったことが、明らかに証明されている。」（武見太郎『医心伝真実』昭和51年）

「実学」（福澤先生）、「学問と社会」（武見先生）
○福澤先生：「本塾の主義は和漢の古学流に反し、仮令ひ文を談ずるにも世事を語るにも西洋の実学（サイヤンス）を根拠とするものなれば、常に学問の虚に走らんことを恐る。」（福澤諭吉『慶應義塾紀事』明治16年）
○武見先生：「日本は文化国家としてみずから世界に君臨しているような顔をしている。（略）しかし、私はそうは考えない。およそ文化国家と称するからには、学問を社会の中に導入する一つのプロセスが確立されていなければならないからだ。社会で起きたことを逆に学問の世界に還元する必要もあるが、還元の手続きもできていない。」（武見太郎『医心伝真実』昭和51年）

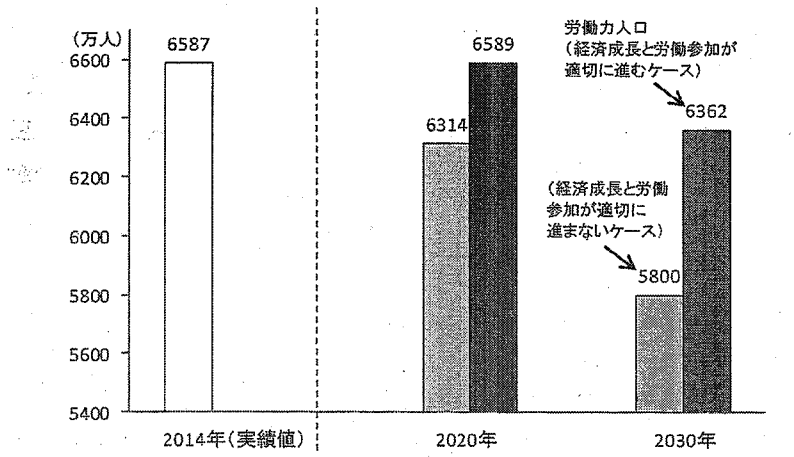
「独立の気力」（福澤先生）、「独立の精神」（武見先生）
○福澤先生：「独立の気力なき者は必ず人に依頼す、人に依頼する者は必ず人を恐る、人を恐るゝ者は必ず人に諂（へつら）うものなり。常に人を恐れ、人に諂う者は次第にこれに慣れ、その面の皮、鉄の如くなりて、恥ずべきを恥じず、論ずべきを論ぜず、人をさえ見れば唯腰を屈するのみ。」（『学問のすゝめ第三篇』明治6年）
○武見先生：「国民に独立の精神があるならば、たとえ老人であろうと、それは尊重されなければならない。この独立心こそ国民福祉の本質的な要諦であると考えられるからだ。」（武見太郎『医心伝真』昭和51年）

〔図表１〕65 歳以上人口割合の変化



（資料出所）国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」から作成。

〔図表２〕労働力人口の見通し



（労働参加進むケースの労働力率）

男性	60-64 歳	77.6%	→	85.4%	→	89.3%
	65-69 歳	52.5%	→	62.3%	→	67.9%
女性	30-34 歳	71.0%	→	79.3	→	84.6%
	35-39 歳	70.8%	→	77.1%	→	83.8%

（資料出所）厚生労働省雇用政策研究会推計、2014 年実績値は総務省「労働力調査」、2020 年及び 2030 年は（独）労働政策研究・研修機構推計

〔図表３〕社会保障給付費の将来見通し

兆円（% 対 GDP 比）

	2012 年度	2025 年度	2025 年度/2012 年度
社会保障給付費総額	109.5（22.8%）	148.9（24.4%）	1.36
年金給付	53.8（11.2%）	60.4（9.9%）	1.12
医療給付	35.1（7.3%）	54.0（8.9%）	1.54
介護給付	8.4（1.8%）	19.8（3.2%）	2.34
子供・子育て支援	4.8（1.0%）	5.6（0.9%）	1.17
その他	7.4（1.5%）	9.0（1.5%）	1.22
GDP	479.6（100%）	610.6（100%）	1.27

（資料出所）厚生労働省

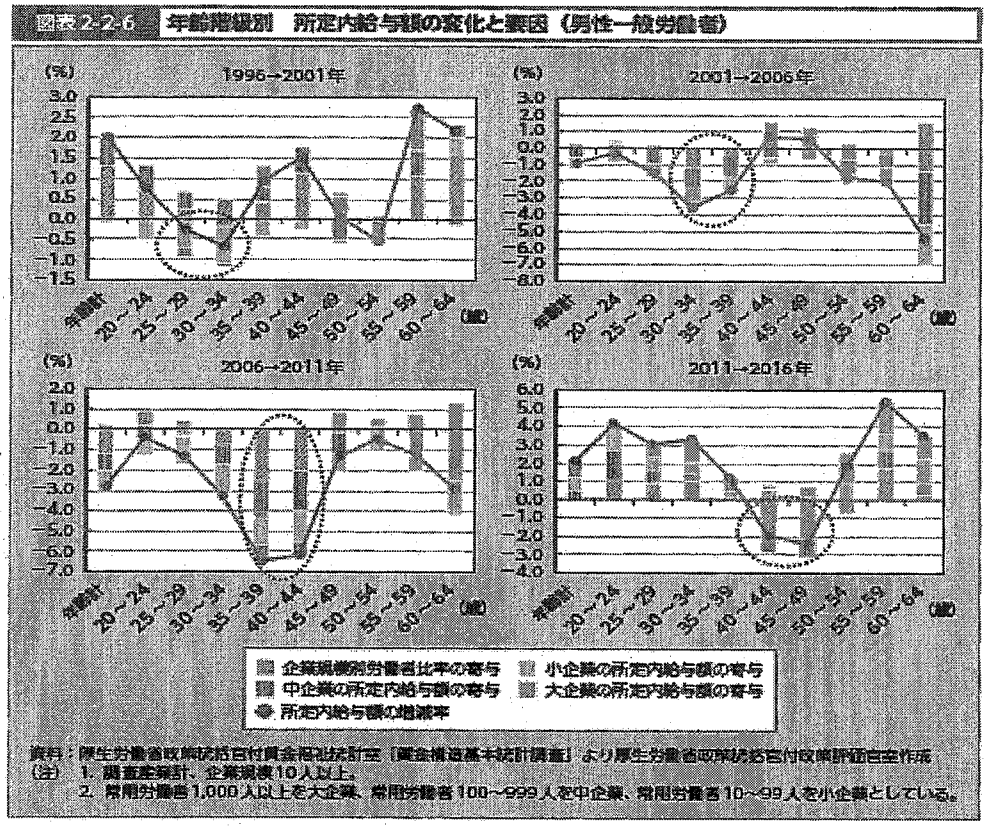
〔図表４〕高齢者の労働供給に関する計測結果（2000 年、男性 60 歳～69 歳）

説明変数	就業確率関数		市場賃金関数
	プロビット係数	偏微係数	回帰係数
年齢	-0.067	-0.027**	-0.029**
あまり元気でない・病気・病気がち	-0.814	[redacted]	-0.152
高校・短大卒業または同程度	-0.053	-0.021	0.184**
大学卒業または同程度	0.021	0.008	0.620**
厚生年金の受給資格	-0.327	[redacted]	
厚生年金以外の非勤労収入（万円）	-0.011	-0.004**	
定年退職経験	-0.462	[redacted]	-0.352**
東京居住ダミー	-0.025	-0.010	0.101*
定数項	5.305	**	8.897**
ラムダ変数			0.323*
Wald test(X2)			926.0**
サンプルサイズ	4029		2212

**1%有意水準で有意、*5%有意水準で有意

（資料出所）清家篤・山田篤裕（2004）『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社

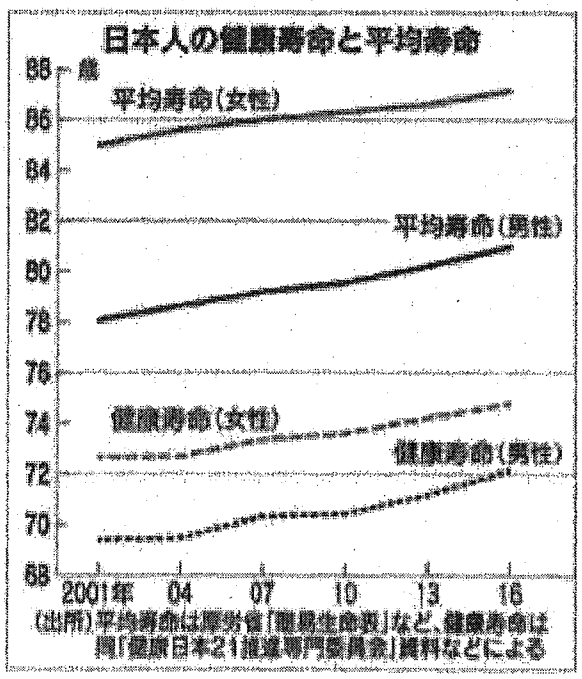
〔図表５〕団塊ジュニア世代の経済状況



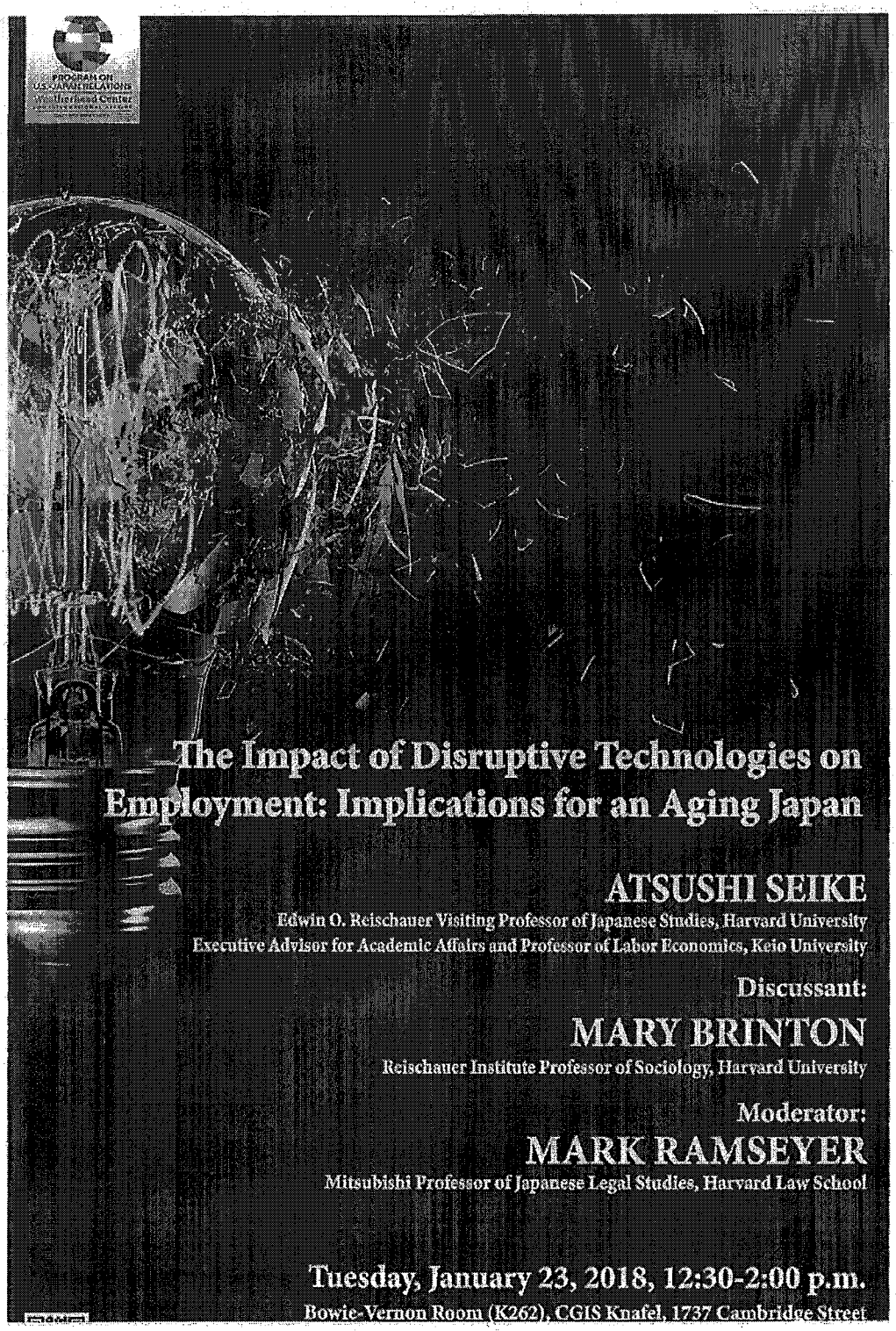
2001 年に 25～29 歳は 1972～1976 年生まれ、30～34 歳は 1967～1971 年生まれ

（資料出所）厚生労働省『平成 29 年版厚生労働白書』（2017）

〔図表６〕平均寿命と健康寿命



〔図表７〕国際発信


PROGRAM ON U.S.-JAPAN RELATIONS
The Reischauer Center
The Impact of Disruptive Technologies on Employment: Implications for an Aging Japan
ATSUSHI SEIKE
Edwin O. Reischauer Visiting Professor of Japanese Studies, Harvard University
Executive Advisor for Academic Affairs and Professor of Labor Economics, Keio University
Discussant:
MARY BRINTON
Reischauer Institute Professor of Sociology, Harvard University
Moderator:
MARK RAMSEYER
Mitsubishi Professor of Japanese Legal Studies, Harvard Law School
Tuesday, January 23, 2018, 12:30-2:00 p.m.
Bowie-Vernon Room (K262), CGIS Knafel, 1737 Cambridge Street